[1] 分子シミュレーション研究会会誌の原稿の書き方

分子大学　シミュレーション学部

分子太郎　bunshi@aaa.bbb.ccc

概要

数行程度（概要の部分は，１段組）

（１行あける）

キーワード：５～１０個程度（キーワードの部分は，１段組）

（１行あける）

1. はじめに

　以下の注意事項に留意して，原稿を作成すること．

（１行あける）

2. 「アンサンブル」用原稿作成上の注意

2.1 標準形式

原稿はMicrosoft Word等を用いて作成し，図や写真等は原稿に張り込み一つのファイルとして完結させる．原稿の標準形式を表1に示す．

表1　原稿の標準形式

|  |  |
| --- | --- |
| 用紙サイズ | A4縦長(210mm×297mm)，横書き |
| 余白サイズ | 上余白28mm，下余白20mm  左余白20mm，右余白20mm |
| タイトル | 1段組，所属，著者氏名，emailを明記 |
| 本文 | 2段組，1段80mm，段間隔余白10mm |
| 活字 | 10ポイント(10×0.3514mm)  タイトル  MSゴシック体  所属，著者氏名  MSゴシック体  著者email  Arial  本文  MS明朝体  見出し  MSゴシック体  英文字・数字  Times New Roman  またはSymbol |
| 1行の字数 | 1段あたり23文字程度 |
| 行送り | 15ポイント(15×0.3514=5.271mm)  1ページあたり45行 |

2.2見出しなど

見出しはゴシック体を用い，大見出しは左寄せして前に1行空ける．中見出しは2.2などのように番号をつけ左寄せする．見出しの数字は半角とする．行の始めに，括弧やハイフン等がこないように禁則処理を行うこと．

2.3句読点

句読点は　，および　．を用い，　、や　。は避けること．

2.4 図について

図中のフォントは本文中のフォントと同じものを用いること．図や表はなるべく上側か下側の隅に固めること．また，カラー図については，同じページにまとめていただけると，印刷コストの件で助かります．

2.5参考文献について

2.5.1番号の付け方

参考文献は本文中の該当する個所に[1]，[2,4]，[6-10]のように番号を入れて示す．

2.5.2参考文献の引き方

著者名，誌名，巻，頁，年の順とする．毎号頁の改まる雑誌は巻-号数のようにして号数も入れる．著者名は，名前のイニシャル．名字，のように記述する．雑誌名の省略法は科学技術文献速報(JICST)に準拠する．文献の表題は省略する．日本語の雑誌・書籍の場合は著者名・書名とも省略しない．下の参考文献の項に，例を挙げるので，参照されたい．

謝辞

　○○氏に感謝します．

参考文献

1. 上田顕，コンピュータシミュレーション，朝倉書店 (1999)．
2. T. Bunshi, I. Dynamics and H. Monte, *J. Chem. Phys.*, **150**, 2009 (2032).
3. M. P. Allen and D. J. Tildesley, Computer Simulation of Liquids, Oxford University Press Inc., New York (1987).

著者紹介　　　　 分子太郎（博士（理学））：〔経歴〕1980年分子科学大学理工学研究科博士課程修了，同年分子科学研究所に入所．1990年から現所属．〔専門〕統計力学，液体論．〔趣味〕演劇鑑賞．

（写真サイズは縦35mm横25mm程度．）